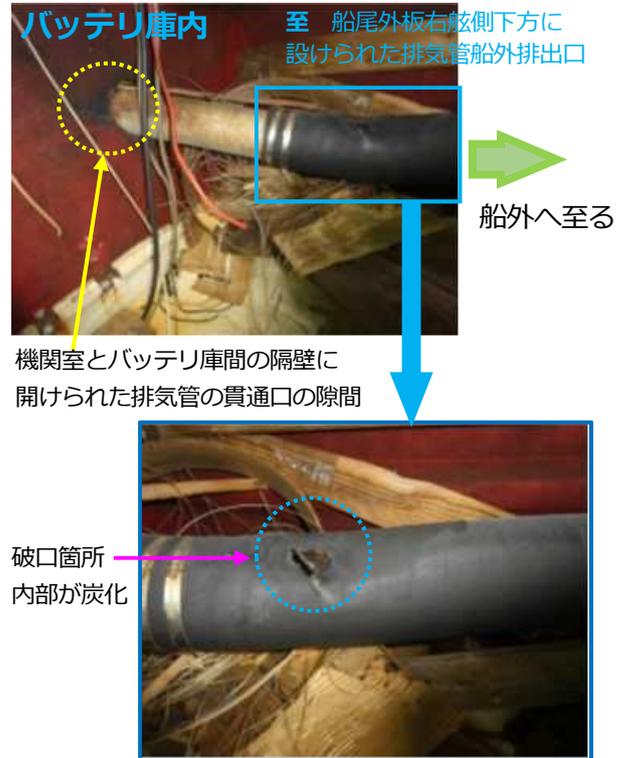


錨泊中、船体が横揺れする状況下、ゴム製排気管に破口を生じ、海水が排気管の排出口から排気管内に逆流して同破口から船内に流入し、浸水した事例

事故の概要：本船（漁船、総トン数4.7トン、9.90m(Lr)、ディーゼル機関、漁船法馬力70）は、錨泊中、主機の排気兼冷却海水船外排出管系統に破口を生じ、機関室が浸水、主機等に濡損を生じた。

事故の経過：

- ・本船は、船長が1人で乗り組み、一本釣り漁業の目的で、18時00分ごろ港を出港し、漁場に到着して錨泊し、主機を停止して漁を行っていたが、風と波を受けて横揺れが激しくなったので、早めに帰港することにした。
- ・船長は、主機の始動後に、錨を揚げようとしたところ、22時30分ごろバッテリー電源で点灯していたマスト灯が消灯し、また、右舷側への船体の傾きを感じたので機関室及びその後方にあるバッテリー庫を確認し、機関室等が浸水していることに気付いた。
- ・本船は、僚船にえい航されて帰港し、排水作業を行い、浸水箇所を調査したところ、**バッテリー庫を貫通する主機の排気兼冷却海水船外排出管（以下「排気管」という。）のゴム製排気管部に破口、主機等に濡損を生じ、廃船処分された。**



事故前の状況：排気管を構成するゴム製排気管は、破口が金属製配管との接続部付近の上部に生じており、**内部が焼損（炭化）して斜めに割損していた。**

本船は、右舷側の魚倉に海水が入れられており、右舷側に少し傾いた状態で、排気管船外排出口の約1/4が海面下に水没し、排気管内の途中まで海水が流入していた。

原因：本事故は、夜間、本船が錨泊中、船体が右舷側に傾斜した状態で風波によって横揺れする状況下、バッテリー庫内を貫通する**ゴム製排気管に破口を生じたため、船尾外板右舷側下方に設けられた排気管船外排出口が横揺れで水没し、海水が同排出口から排気管内に逆流して同破口から船内（機関室等）に流入し、浸水したものと考えられる。**

ゴム製排気管は、以前に主機が冷却海水不足の状態で作動された際、排気ガスで生じた焼損部が、割損して破口を生じた可能性があると考えられる。

再発防止に向けて（事故等の防止対策）

- ・湿式排気管は、定期的に排気管系統の点検を行うことが望ましい。
- ・主機の排気管は、金属製のものが望ましい。

本事故の調査報告書は当委員会ホームページで公表しています。（令和2年4月30日公表）
https://www.mlit.go.jp/jtsb/ship/rep-acci/2020/MA2020-4-21_2019mj0095.pdf